

今月号の主な内容は、

- 工事の進捗状況等
 - ・受電用変圧器の受電
 - ・溢水防止壁設置工事

- 訓練
 - ・代替熱交換器操作訓練
 - ・大容量送水ポンプ操作訓練

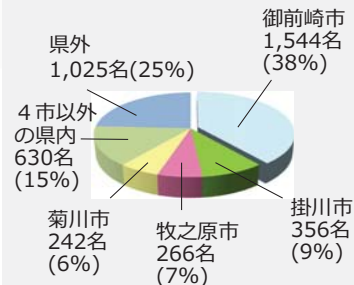
○静岡県と御前崎市による点検および確認です！



浜岡原子力発電所従事者数
(8月1日現在)

4,063名 (安全性向上対策工事従事者以外を含む)

【御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住：2,408名 (60%)】



【工事の進捗状況等】

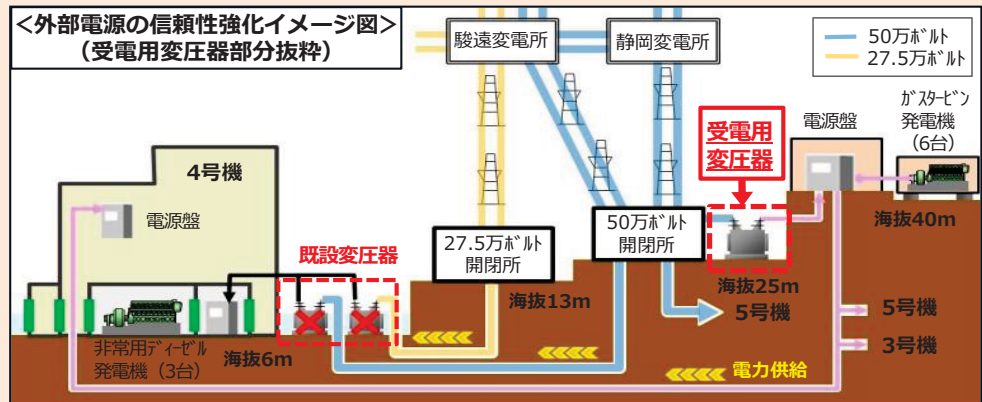
○受電用変圧器の受電 【敷地図①】

外部電源の信頼性強化の一つとして、既設変圧器の津波による浸水等に備え、長期的な原子炉の冷却のために必要な大容量の電力を供給する受電用変圧器を設置し、8月17日、50万ボルトの送電線から受電用変圧器への受電確認をおこないました。



受電確認の様子

<外部電源の信頼性強化イメージ図>
(受電用変圧器部分抜粋)

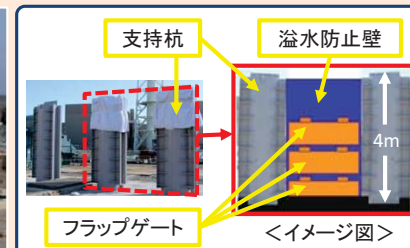


○溢水防止壁設置工事 【敷地図②】

発電所敷地全体の対策として実施している3～5号機溢水防止壁設置工事において、現在溢水防止壁の支持杭設置工事などを進めています。地上高4mの支持杭が、3～5号機全体で167本中94本設置されました。(8月27日現在)



3～5号機溢水防止壁設置工事の様子



支持杭と支持杭の間に溢水防止壁を設置

【訓練】

○代替熱交換器操作訓練

8月10日、25日に、取水した海水で冷却水を冷やす機能を喪失した場合でも、冷却機能を確保するための代替熱交換器の操作訓練を実施しました。



代替熱交換器へ電源ケーブルを引いている様子

○大容量送水ポンプ操作訓練

8月10日、25日に、重大事故などで原子炉建屋ベント設備により排気する場合でも、大量の水を放水し、放射性物質を地上に落として敷地外への拡散を抑制するための大容量送水ポンプの操作訓練を実施しました。



ポンプをクレーンで吊り上げている様子

【静岡県と御前崎市による点検および確認】

8月25日、当社が実施している津波対策工事ほか追加工事について、御前崎市の立ち会いの下、静岡県による点検を受けました。43回目となる今回は、防波壁の設置工事および受電用変圧器の高台設置工事について点検を受けました。

静岡県から、「受電用変圧器について、中部電力の計画どおり高台に設置されており、外部電源が受電できることを確認しました。電源確保のため、多くの機器を設置しているが、これらの機器の運用方法を今後検討してもらいたい。」「防波壁工事の点検結果について、点検基準を満足していることを確認しました。今後も安全管理に留意し、着実に工事を進めてもらいたい。」との講評をいただきました。

御前崎市から、「今後も暑い日が続くため、労働環境に気を配り、労働者の健康管理、特に熱中症に留意してもらいたい。」との講評をいただきました。



防波壁設置工事点検の様子



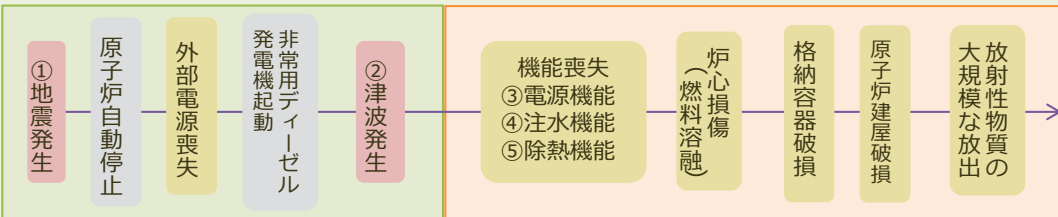
受電用変圧器高台設置工事点検の様子

発電所の更なる安全性向上への取り組み【概要】

設備

様々な事象を想定し、設備を揃えています。

例えば、福島第一原子力発電所の事故の場合は以下のように事象が進展しました。

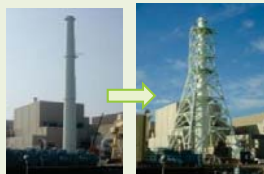


浜岡原子力発電所では、原子炉施設の安全性を確保するために必要な「止める」「冷やす」「閉じ込める」機能が一齐に喪失する要因への対策を強化します。

①地震対策



Ⓐ配管サポート工事



Ⓒ排気筒補強工事

②津波対策



Ⓒ防波壁



Ⓓ大物搬入口

他にも、竜巻や火災など様々な事象を想定し、対策を講じています。

万が一にも、原子炉の燃料が溶けるような事故（重大事故）や更に事象が悪化して格納容器や建屋が破損するような事故に至らないよう、原子炉を冷やすための設備やそれらを動かす電源設備を多重化しています。

③電源対策



Ⓔガスタービン発電機建屋



Ⓕ交流電源車

④注水対策

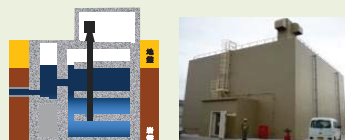


Ⓖ大容量送水システム（ハイドロサブ）

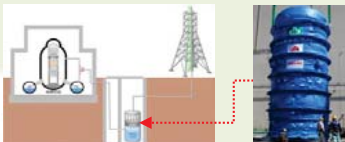


Ⓖ可搬型取水ポンプ車（クローラー型）

⑤除熱対策



①緊急時海水取水設備



②フィルタバント設備

格納容器内を除熱し、炉心損傷、過圧破損を防止する設備。また、フィルタを通すことにより放射性物質の大規模な放出を抑制します。



Ⓚ代替熱交換器車

F G H K

E

B

D

I

J

対応力

様々な事象に対応するため、体制等を強化し、訓練を繰り返し実施しています。

万が一、重大事故に至る恐れがある場合にも重大事故を防止し、重大事故に至った場合も、その影響を緩和するため、「防災体制の強化」、「資機材の拡充」、「対応手順の追加・改善」など、現場対応力の向上に取り組んでいます。

対策①：防災体制の強化



24時間365日、緊急時の初動対応を専門に行う組織「緊急時即応班（ERF）」の導入等

対策②：資機材の拡充



衛星電話（NTT不通時用）、放射線測定器の配備等

対策③：対応手順の追加・改善



重大事故等が発生した場合の手順の整備等

徹底した訓練の実施

個別訓練

総合訓練

これらの対策が有効に機能することを確認し、現場の対応力を向上させるための訓練を継続的に実施していきます。

発電所内の災害対策要員600人中約400人が参加。各班に分かれ、事故時の対応手順の確認や他班との連携を確認します。



がれき撤去訓練



電源車へのケーブル接続訓練



緊急時対策所・本部席



地域・広報班（通報訓練）



注水車へのホース接続訓練



バント操作訓練



放射線管理班（スクリーニング訓練）



中央制御室

審査会合

原子力規制委員会による新規規制基準適合性確認審査を受けています。（3,4号機を申請中ですが、現在4号機の審査が進められています。）

<4号機の進捗状況>

（平成27年8月26日現在）

項目	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項*
回数	計9回 (参考) 九州電力 川内1,2号機 20回 関西電力 高浜3,4号機 33回	計49回 (参考) 九州電力 川内1,2号機 37回 関西電力 高浜3,4号機 24回

* プラントに関する事項は、現在東京電力柏崎刈羽原子力発電所が集中的に審査されています。